

2018

11/24_{sat}～25_{SUN}

日本爬虫両棲類学会

第57回相模原大会

プログラム

会場
麻布大学 生命環境科学部棟
テラスいちょう
大教室





第57回大会

11月23日（金）		11月24日（土）				
		A会場（L201）	B会場（L202）	C会場（L204）	テラスいちょう	いのちの博物館
8:00						
8:30		8:30～ 受付・クローケ				
9:00		9:20 開会式				
9:30		9:30-10:15 A1 O1-O3 (有尾・分類など)	9:30-10:15 B1 O17-O19 (ヘビ・毒)	9:30-10:15 C1 O33-O35 (カメ・アカミミ)		
10:00		10min				
10:30		10:25-11:10 A2 O4-O6 (無尾・生物地理)	10:25-11:10 B2 O20-O22 (トカゲ類・行動生態)	10:25-11:10 C2 O36-O38 (カメ・生態)		
11:00		5min				
11:30		11:15-12:00 A3 O7-O9 (有尾・分類など)	11:15-12:00 B3 O23-O25 (ヘビ・行動生態)	11:15-12:00 C3 O39-O41 (カメ・生態)		
12:00		12:00-13:15 昼休憩 カエル探偵団 自由集会	12:00-13:15 昼休憩 カメネットワークジャパン 自由集会			
12:30						10:00～16:00 随時見学
13:00						
13:30		総会（A会場） 13:15-14:15				
14:00						
14:30		14:20～15:05 A4 O10-O12 (無尾・生理生態)	14:20～15:05 B4 O26-O28 (ヘビ・分類など)	14:20～15:05 C4 O42-O44 (カメ・生態)		
15:00		5min				
15:30		15:15～16:15 A5 O13-O16 (有尾・発生など)	15:15～16:15 B5 O29-O32 (両生類・保全など)	15:15～16:15 C5 O45-O48 (カメ・分類など)		
16:00		15min				
16:30	16:30～18:00 編集委員会				16:30～18:00 PS1 ポスター セッション (2F)	
17:00	和文誌（17:00～） 英文誌（16:30～）					
17:30	獣医学部棟 4F/6Fゼミ室					
18:00	18:00～20:00 学会運営委員会 獣医学部棟 6Fゼミ室				18:00～20:00 懇親会 (1F)	
19:00						
20:00						

受付（L棟1F中央）	両日とも8:30～ 事前登録受付・当日受付・データ受付がございます。 お弁当 事前申し込みの方に、11:30頃からL棟1F中央階段脇にて配付します。
クローケ（L106）	11/24 8:30-18:00まで（懇親会前にクローケを閉じますので、ご注意下さい） 11/25 8:30-16:30まで ※荷物はご自身でクローケへお運び下さい。受付では荷物預かりはいたしません。

スケジュール

11月25日（日）					SCAPARA 大教室
	A会場（L201）	B会場（L202）	C会場（L204）	テラスいちょう いのちの博物館	
8:00					
8:30	8:30～ 受付・クローカ				
9:00	9:00-9:45 A6 049-051 (有尾・オオサンショウウオ)	9:00-9:45 B6 059-061 (ヘビ・いろいろ)	9:00-9:45 C6 069-071 (トカゲ類・生物地理)		
9:30		5min			
10:00	9:50-10:35 A7 052-054 (無尾・分類/行動生態)	9:50-10:35 B7 062-064 (ヘビ・行動生態)	9:50-10:35 C7 072-074 (爬虫類・生物地理)		
10:30		15min (会場移動)			
11:00					
11:30	10:50-11:50 大会記念講演 (SCAPARA共催/大教室)				10:50-11:50 大会記念講演 (共催)
12:00	バッファタイム・移動時間				
	12:00頃 記念撮影 (獣医学部前芝生 (雨天時L棟1F))				
12:30	12:00-13:15 昼休憩 カエル探偵団 自由集会	12:00-13:15 昼休憩 カメネットワーク ジャパン 自由集会			10:00～16:00 随時見学
13:00					
13:30	13:15~14:15 A8 055-058 (無尾・生理)	13:15~14:15 B8 065-068 (有尾・分類)	13:15~14:15 C8 075-078 (爬虫類・古生物/行動 生態)		
14:00		15min (移動・休憩)			
14:30				14:30～16:00 PS2 ポスター セッション (2F)	
15:00					
15:30					
16:00				閉会式	
16:30					

開会式 11/24 9:20- A会場（L201） / 閉会式 11/25 16:00- ポスター会場（テラスいちょう2F）

総会 11/24 13:15-14:15 A会場（L201）

大会記念講演 11/25 10:50-11:50 大教室 (L棟ではありません)

記念撮影 11/25 大会記念講演終了後（12:00）に獣医学部棟前芝生で行います。
雨天の場合はL棟1Fにて行います。

懇親会 11/24 18:00-20:00 事前申し込み制です。大会当日の懇親会申し込みはありません。

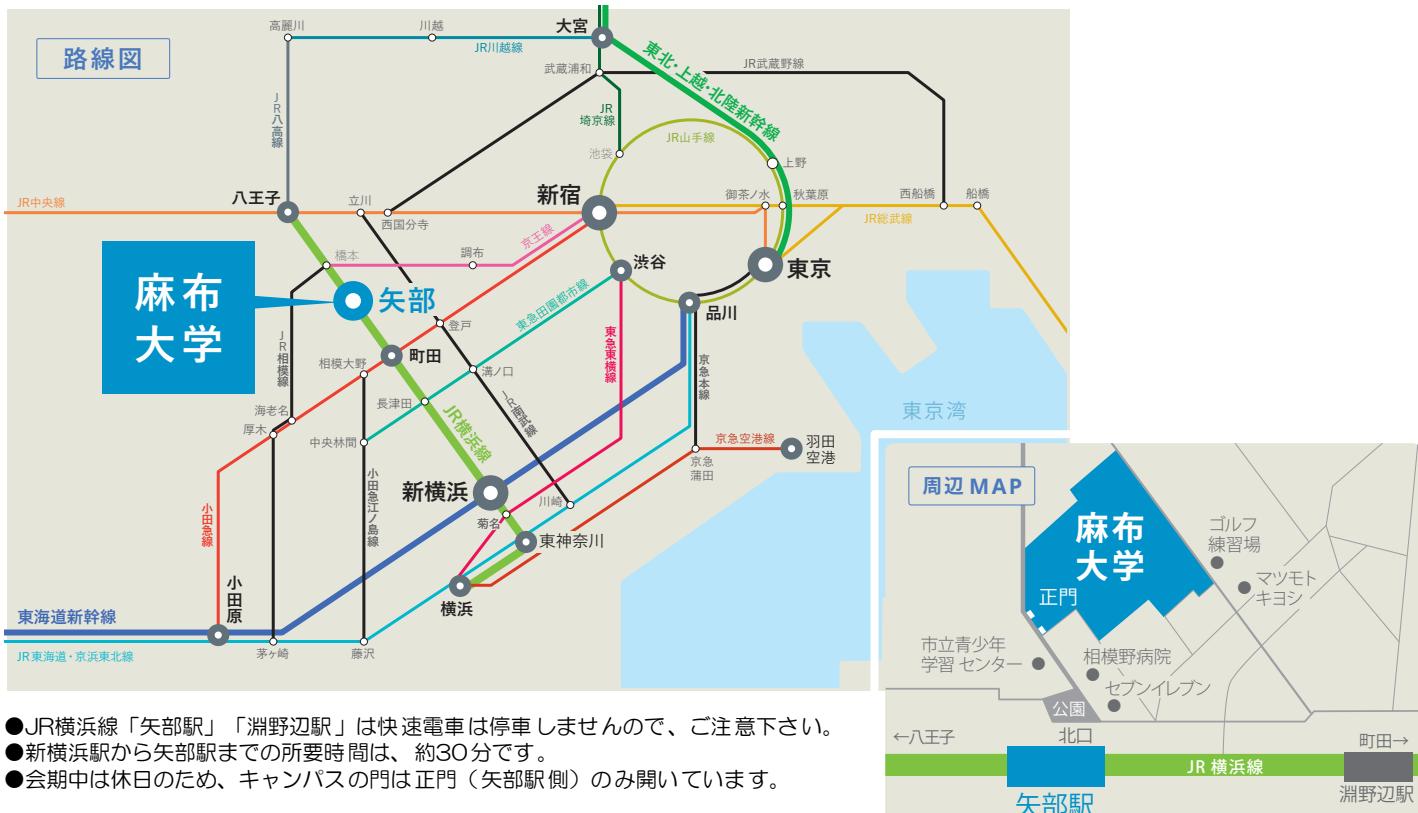
自由集会 11/24, 25のお昼休憩時に自由集会があります。
カエル探偵団（L201） 11/24 前田憲男さん講演会、11/25 総会
カメネットワークジャパン（L202）

いのちの博物館 キャンパス内に大学博物館があります。両日とも10:00-16:00に開館しており、
自由に見学いただけます。

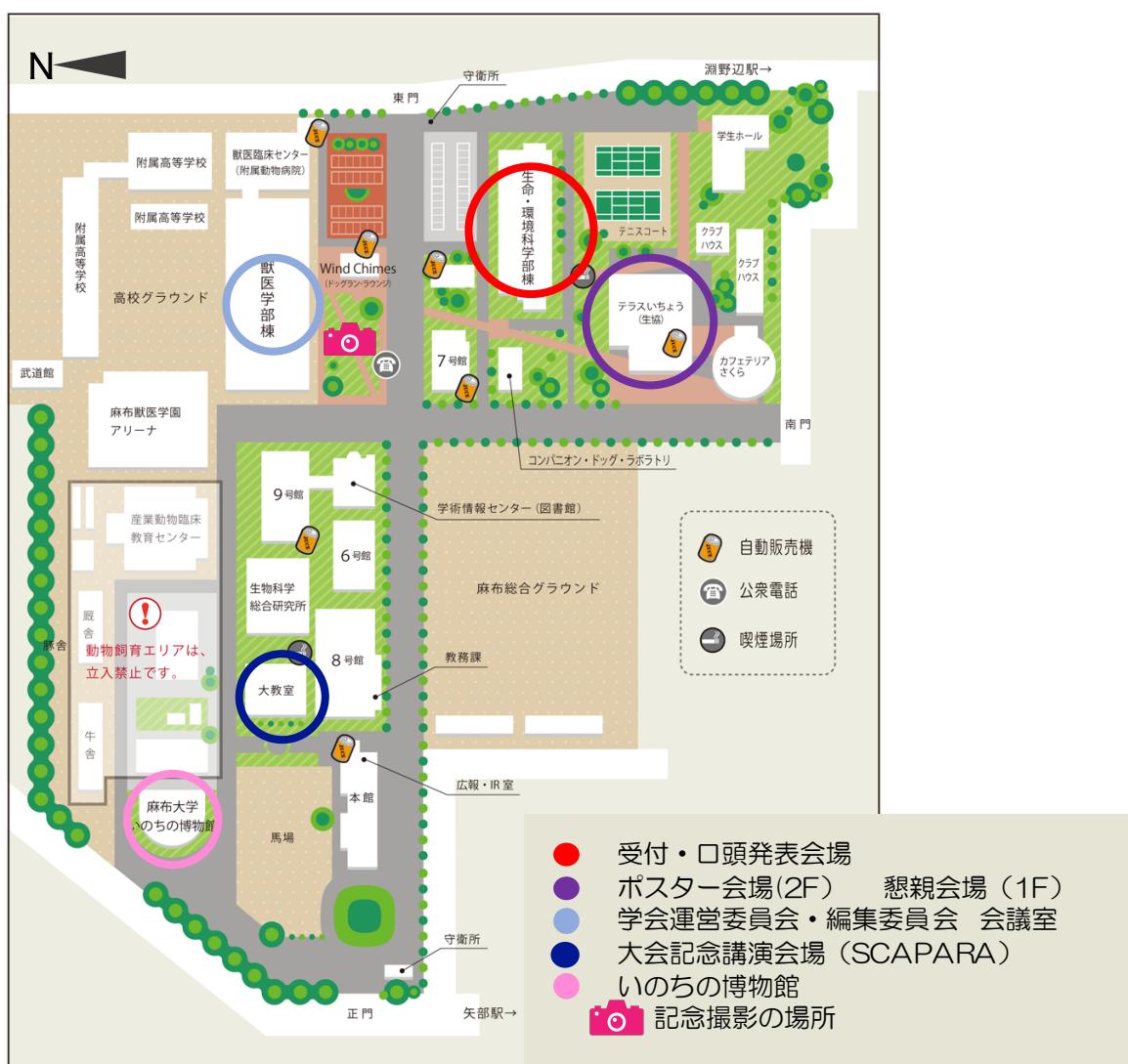
11/25 同じキャンパス内で、SCAPARA（爬虫類と両生類の臨床と病理のための研究会）ワークショップが開催されています。（10:00-17:30 大教室）

麻布大学 交通アクセス

■JR横浜線 矢部駅より徒歩4分



麻布大学 キャンパスマップ



生命・環境科学部棟（L棟）（総合受付・口頭・出展）

N

2F

@
WIFI

L201
A会場

L202
B会場

L203
休憩室

L204
C会場



L205
学会本部
バックナンバー
販売



1F

@
WIFI

L101
大会事務局

自動ドア

L103・104
出展ブース

L106
クローク



INFO

受付

手動ドア



WC

自販機

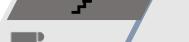


テラスいちょう（ポスター・懇親会）

2F

@
WIFI

ポスター
会場



自販機



1F

@
WIFI

懇親会
会場



施設のご利用に際して

- 館内は禁煙です。喫煙は喫煙所をご利用下さい。（L棟1F手動ドア側外に喫煙室がございます）。
- このマップに記載のない教室などへの立ち入りはご遠慮下さい。
- L棟3～6Fは多数の研究室があるため、3階以上への立ち入りはご遠慮下さい。
- L棟1-2F間の移動はなるべく中央階段をご利用下さい。
- 講義室での飲食は可能です。L103・104会議室での飲食はご遠慮下さい。
- 休憩室として、L203講義室にお茶やお菓子をご用意しています。
- ポスター会場には、自販機のほか、給茶室を1室設けます。ポスター会場周囲に配置されているソファ席やテーブル席を自由にご利用下さい。
- 構内の美化にご協力下さい。その他、運営スタッフの案内に従ってください。

大会記念講演

11月25日（日）10:50-11:50 大教室

日本爬虫両棲類学会・爬虫類・両生類の臨床と病理のための研究会（SCAPARA）共催

「私たちがみているもの」

宇根 有美

岡山理科大学獣医学部病理学研究室

知り合いのお子さんが、「でべそ」(軽い臍ヘルニアか、臍帯炎か?)で、総合病院の小児科を受診した。検査したところ、泌尿器科に行くように言われた。転科して再検査したところ、循環器科に行くように言われた。一人の子供の「でべそ」に、何人の専門家が携わったが、診断が下されるまでに多くの時間と労力が浪費され、その間、明快な説明はなく、家族は不安にさいなまれた。

獣医病理学は、死亡した動物の死因とその機序を解明する学問分野で、病因解明のために、日常的にいろいろな検査をおこなうが、盲目的に検査したり、データを分析する力がないと、結果に翻弄され、混乱して、本態を見誤る可能性がある。また、死亡した動物の体に観察される1つ、1つの病変はゆるぎないものであるが、それぞれの病変が、死に至る経過で、どのように死に携わっていたのか、何が原因で、何が結果なのか、見極めないといけない。

一人ひとりの専門家がみていること、それぞれの検査結果や病変は、すべて事実であるが、それぞれの「パーツ」が意味すること、それらのパーツを総合して明らかになる1頭の動物の病態、1つの事例の「本態」を見定めることが重要で、そのためには、病理学研究者のみならず、臨床家、ときに微生物学研究者などの様々な分野の専門家の解析が必要となる。この過程は、個体 individual のみに当てはまるだけではなく、生物群や生物種に起こる事象に対しても、多くの専門家の視点による解析が不可欠である。

Disease ecology 疾病生態学とも表現される学問分野がある。自然界で発生した異常な現象、例えば、大量死、感染症の流行を、宿主・病原体のそれぞれの生態と特性、地理、気象、気候などの多くの因子の相互関係を解析して、その実態を明らかにするとともに、感染症であればその拡散予測と、生態系への影響まで評価する。この過程には多くの専門家の知識と技術が必要で、疾病生態学は高度に学際的である。

日本両棲爬虫類学会と爬虫類と両生類の臨床と病理のための研究会の、初のジョイント学術大会の特別講演に際して、両棲類・爬虫類という対象を同じくする、視点を異にする専門家が一堂に会するこの機会に、これから起こるかもしれない様々な事象に対して、専門家がどのように協力して対応していくのか、この講演をそのきっかけにしたい。

宇根有美

35年を過ごした麻布大学を退職して、2018年4月から新天地「岡山理科大学獣医学部」に赴任しました。何もないところからの出発ですが、6月からは、病理専門の臨床検査技師の方のサポートがあり、四国という距離感を感じることなく、各地からの病性鑑定依頼を受けています。剖検数はまだ、30を越したくですが、プロの目は確かなもので、これぞという症例が来ています。いまさらのように「病は尽きない」という印象です。そして、この大学では、種々様々な動物を用いた実験ができる施設があります。今、カエルとカブトガニを飼育しています。廊下隣の部屋ではヒラメを飼っています。といったような状況で、これからもいろいろな動物の病気にチャレンジしようとしています。

<口頭発表データの提出>

発表データは電子メールで事前にご提出下さい。

*提出〆切 11月22日(木)午前10:00まで

*提出先アドレス herpetol2018@gmail.com

※講演要旨提出アドレスとは異なります。

*ファイルサイズは20MBまで。

メールタイトルおよび添付ファイル名は、

講演番号-(ハイフン)名字でお願いします。

例) O90-山田

*発表データを大会当日に持参される方は、11/22(木)
10時までに大会事務局アドレスへその旨ご連絡下さい。

*大会にデータを持参される方はUSBなどでお持ちください。

持参の場合のデータ提出締切(大会受付へ)

11月24日の発表者：11月24日9:00

11月25日の発表者：11月24日の12:30

注意

・発表に用いるPCのシステム環境が変更になりました。

WindowsノートPC、

OS: Windows 7

Microsoft Power Point: 2010又は2013

PDFリーダー: 有

動画の利用は、システム環境が異なる場合、動作しないことがありますので留意願います。

・OHPは利用できません。

<座長の担当について>

今大会の座長は、前発表者が次発表者の座長を担当する形式です。各セッション最初の演題や外国人の発表者の演題など、一部の演題では前もって固定の座長をお願いしています。依頼を受けられた方々には、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

<座長への案内>

*会場には3名の運営スタッフがいます。円滑な進行に御協力をお願いします。

*各セッションの最初の発表者の座長は、発表開始30秒前に、会場名とセッション名(例えばA会場でセッションA1)をアナウンスください。

*発表開始時間になったら、プログラム番号(OO1-78),発表者、タイトルをアナウンスし、発表を促してください。発表

者はプログラムに〇が書いてある方です。発表者が複数の場合、発表者ほかと省略してください。

*口頭発表は12分の発表時間に3分の質疑応答時間です。

10分で1回、12分に2回、15分に3回のベルが鳴ります。15分を過ぎた場合は、座長は発表者に時間がきたことをマイクで伝え、発表を終わらせるように促してください。

*質疑応答では、15分間をオーバーしないよう調節ください。30秒ほど時間が余ったとしても構いませんので、無理には質問を受けつけないでください。また質問が会場から出なかつた場合でも、無理に座長が質問する必要はありません(可能な範囲でお願いします)。時間が余っても次の発表の開始時間を早めることはしないで下さい。

*以下はアナウンス例です。

「ただいまの発表について質問などございますか?」

「時間がありませんので短い質問を受け付けます。」

「時間になりましたので、次の発表にうつります。」

「時間は残っていますが、次の発表は〇時〇分からになります。しばらくお待ちください。」

*大会事務局から発表キャンセルの連絡があった場合、その旨を会場にアナウンスしてください。その場合、次の発表の開始時間を早めることはしないで、休憩を入れてください。引き続き、次の発表の座長をお願いします。

*発表キャンセル以外にも、大会事務局から連絡事項が伝えられる場合があります。その際も、会場へのアナウンスをお願いします。

<ポスター発表について>

ポスター発表: 幅84cm 高さ120cm(AOサイズ)以内に収まるよう印刷してご持参下さい。パネルの番号にしたがって掲示をお願いします。掲示のためのピンは大会事務局で用意します。コアタイムは、奇数番号(11/24 16:30-17:30)偶数番号(11/25 14:30-15:30)です。11/25の大会終了後、速やかに取り外しをお願いします。ポスター会場ポスター会場片付け時に残っているポスターは、大会事務局で処分いたします。

<注意>

口頭発表・ポスター発表とともに、発表者の同意なく撮影することはできません!

日本爬虫両棲類学会 第57回大会

口頭発表プログラム

11月24日

PG番号	発表タイトル	発表者	開始時間	セッション
O1	ツシマサンショウウオ2遺伝集団間の生殖的隔離の検証	○丹羽塗太（京大・人間・環境）・黒尾正樹（弘前大・農生）・西川完途（京大・人間・環境）	9:30	A1
O2	コガタブチサンショウウオ種内の遺伝的多様性について	○栗田一輝（京大・人間・環境）・富永篤（琉球大・教）・松井正文（京大・人間・環境）・田辺真吾（京都市）・西川完途（京大・人間・環境）	9:45	A1
O3	マイクロサテライト解析に基づくトウホクサンショウウオの種内変異について	○大竹阿士・西川完途・松井正文（京大・人間・環境）・青木玄（京都市）	10:00	A1
O4	日本産ヒキガエル属の歴史生物地理	○福谷和美・松井正文・西川完途（京大・人間・環境）	10:25	A2
O5	ニホンアマガエルの地域分化：核DNAの解析と交配実験について	○檜垣友哉（広島大・院・理）・尾形光昭（横浜市繁殖センター）・藤谷武史（東山動物園）・田上正隆（世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ）・関慎太郎（京都水族館）・三浦郁夫（広島大・両生類研究センター）	10:40	A2
O6	福井県、石川県におけるツチガエルのZW型性染色体の進化	○尾形光昭（横浜市繁殖センター）・三浦郁夫（広島大・両生類）	10:55	A2
O7	守れ！ふるさとのカスミサンショウウオIX～生殖行動を誘発する性フェロモンと受容体について～	○矢追雄一・村瀬すぐり・河野有香・山口萌・坂井雄祐・高木雅紀（岐阜県立岐阜高等学校）	11:15	A3
O8	ツクバハコネサンショウウオの集団遺伝構造と保全	○吉川夏彦（科博・分子資料センター）・長太伸章（標本センター）・松井正文（京大・人間・環境）	11:30	A3
O9	形態・生態で区分されたカスミサンショウウオ各型の遺伝的検討	○松井正文（京都市）・大川博志（広島学院中高）・青木玄（京都市）・江頭幸士郎（北九州自然史博）・西川完途（京大・地環）	11:45	A3
O10	ヤマアカガエルの幼生期における血縁者識別について	長谷和子（総研大・先導科学）	14:20	A4
O11	オットンガエルの7年間にわたる標識再捕調査結果	○岩井紀子（農工大・自然環境保全）・永井弓子（奄美両生研）・休場聖美（農工大・自然環境保全）	14:35	A4
O12	アマミイシカワガエルにおける繁殖コール頻度のピークと個体群間比較	○休場聖美・岩井紀子（農工大・自然環境保全）	14:50	A4
O13	カスミサンショウウオの発生段階図表と孵化直後幼生の形態変異	○見澤康充（建設環境研）・松井正文・西川完途（京大院・人間・環境）・岡田純（ハンザキ研）・岩田貴之（安来市）	15:15	A5
O14	カスミサンショウウオの骨格形態にみられる性的二型	○原壮大朗・西川完途（京大・人間・環境）	15:30	A5
O15	オオイタサンショウウオ幼生におけるエサの種類と成長の関係	○吉原妃花梨（大分大・教）・菅原弘貴（トラストバイオ株式会社）・永野昌博（大分大・理工）	15:45	A5
O16	オオイタサンショウウオ幼生の温度と成長の関係	○有留維織（大分大・教）・菅原弘貴（トラストバイオ株式会社）・永野昌博（大分大・理工）	16:00	A5
O17	ヤマカガシ属ヘビ <i>Rhabdophis pentasupralabialis</i> が頸腺に蓄積するステロイド毒の由来	○氏家里奈子（京大・農）・吉田達哉（花王）・竹内寛彦（日本大・生物）・城野哲平（琉球大・熱生研）・研・Qin Chen・Li Ding・Yezhong Tang（成都生物研究所）・Tsai Tein-Shun（ピントン科技大学）・Cao Chengquan（楽山師範大学）・Alan Savitzky（ユタ大・生物）・森哲（京大・理）・森直樹（京大・農）	9:30	B1
O18	ハブ (<i>Protobothrops flavoviridis</i>) の全ゲノム解析から明らかになった毒液関連遺伝子群の多重化および加速進化と染色体構造との関係	○柴田弘記（九大・生医研）・千々岩崇仁（崇城大・生物生命学部）・上田直子（崇城大・薬学部）・服部正策（東大・医科研）・松原和純（関西大学）・松田洋一（名大・院生命農学）・久田香奈子・将口栄一・佐藤矩行（OIST・マリンゲノミックスユニット）・小川智久（東北大・生命科学）	9:45	B1
O19	ハブ毒ホスホリバーゼA2 (PLA2) アイソザイムの地域特異性—沖縄島の北部と南部の比較—	○宮崎真里奈・千々岩崇仁（崇城大・工学研究・応用生命）・塩井成留美（福岡大・理・化学）・寺田考紀（沖縄県衛生環境研究所）	10:00	B1
O20	グリーンアノールの止まり木選択と餌資源	○三谷奈保・織田大原冬希・伊藤裕之輔（日大・生物資源）・岸本年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）	10:25	B2
O21	ミナミヤモリの島嶼個体群間にみられる鳴き声の繁殖的形質置換	○城野哲平・戸田守（琉大・熱生研）	10:40	B2
O22	Examining the pattern of character displacement of two sympatric agamid lizards in northern Taiwan	○Shan-Dar Tao (Ryukyu Univ.) and Yu-teh Kirk Lin (California State Univ.)	10:55	B2
O23	沖縄島北部における夜間活動時のヘビ類の体温	○森哲（京大・理）・戸田守（琉球大・熱生研）	11:15	B3
O24	Do competition cause pit vipers switch ambush sites between adult snakes and juvenile snakes	Chun Kai YANG (Kyoto Univ.)	11:30	B3
O25	A study of Rhabdophis in Indonesia: an effort to identify presence of the Nuchal Gland	○Syahfitri Anita, Amir Hamidy, Misbahul Munir (RCB LIPI) and Akira Mori (Kyoto University)	11:45	B3
O26	環境DNA解析による種内の遺伝的変異性評価の試み—ウミヘビ類を例として	○徳山孟伸（琉球大・院理工）・佐藤行人（琉球大・戦略プロジェクトセ）・笹井隆秀（須磨水族園）・○戸田守（琉球大・熱生研）	14:20	B4
O27	イイジマウミヘビの遺伝的集団構造	○長崎哲新（三重大・院・生物資源）・太田英利（兵庫県立大・自然研/人博）・戸田守（琉大・熱生研）・河村功一（三重大・院・生物資源）	14:35	B4
O28	キクザトサワヘビの系統学的、生物地理学的位置	○太田英利（兵庫県立大・自然研）・長崎哲新・河村功一（三重大・生物資源）・佐藤文保（久米島ホタル館）	14:50	B4
O29	南西諸島におけるウシガエルの分布	○嶋津信彦（しまづ外来魚研究所・島嶼生物研究所）	15:15	B5
O30	利根川下流域におけるアフリカツメガエル幼生の生息状況	○小林頼太（カメネット）	15:30	B5
O31	最近発見された愛媛県産のシコクハコネサンショウウオとコガタブチサンショウウオの古い標本	○稻葉正和（愛媛県総合科学博）・○岡山健仁（面河山岳博）	15:45	B5
O32	トウキョウサンショウウオのアライグマ対策の実践例と効果	○藤田宏之（川の博物館）・三本圭二（児沢探検隊）	16:00	B5

O33	淡路島で増えつつあるミシシッピアカミミガメ	○西堀智子・久米卓美(和亀保護の会)	9:30	C1
O34	初期定着と考えられるミシシッピアカミミガメ個体群について	○多田哲子・坂雅宏(京都府環境研)	9:45	C1
O35	日本に定着したミシシッピアカミミガメの卵胞成長について	○坂雅宏・多田哲子(京都府環境研)	10:00	C1
O36	兵庫県瀬戸川流域におけるアカミミガメの行動範囲	○谷口真理(明神アカミミ協/自然回復)・高橋洋生(自然研)・三根佳奈子・上野真太郎(明神アカミミ協/自然回復)・亀崎直樹(岡理大/明神アカミミ協)	10:25	C2
O37	愛知県知多半島に棲むニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメの個体群密度や生息状況の変化	○矢部隆(愛知学泉大・現代マネジメント)・田村ユカ(名古屋大・院・環境)・高橋洋生(自然研)	10:40	C2
O38	岐阜県山除川水系に同所的に生息するニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメにおける、X線撮影で観察した産卵様式の種間比較	○田村ユカ(名古屋大・院・環境)・矢部隆(愛知学泉大・現代マネジメント)・夏原由博(名古屋大・院・環境)	10:55	C2
O39	アライグマ侵入域におけるニホンイシガメの生息状況	○加賀山翔一・大竹海也・下藤章・宍倉慎一朗(東邦大院・理)・長谷川雅美(東邦大・理)	11:15	C3
O40	実験から推察される淡水ガメ3種の幼体の隠れ場所	○藤林真(岡理大・生地)・竹田正義(姫路水)・亀崎直樹(岡理大・生地)	11:30	C3
O41	外来種ミシシッピアカミミガメの個体群構造に起きた変化	○野田英樹(いしかわ動物園)・大河原恭祐(金沢大・自然システム)	11:45	C3
O42	淡水性カメ類に対する日光浴式トラップとベイト式トラップの捕獲効率の季節変動	○高橋洋生(自然研)・谷口真理(自然回復)・八元綾(環境省)	14:20	C4
O43	京都府丹後半島の砂浜海岸で確認された淡水性カメ類の足跡	竹田正義(姫路市立水族館)	14:35	C4
O44	静岡県牧之原市の河川における淡水ガメの種組成の変化	○三根佳奈子((株)自然回復)・山本明男(カメハメハ王国)・上野真太郎(東大院・農)・藤林真(岡山理大院・生地)・亀崎直樹(岡理大・生地)	14:50	C4
O45	ミシシッピアカミミガメとクサガメの摂餌活性の季節変化	○亀崎直樹・光峰亘・礒野将多(岡理大・生地)	15:15	C5
O46	ウミガメ類幼体の外部形態における種内および種間変異	○岡本慶(水産機構・国際水研)・亀崎直樹(岡山理大・生物地球)	15:30	C5
O47	カメの背甲は内骨格由来か?	疋田努	15:45	C5
O48	Herpetofaunal mortality on roads in Pulau Langkawi, Kedah, Peninsular Malaysia	Norshaqinah Ayob (National Univ. of Malaysia)	16:00	C5

11月25日

PG番号	発表タイトル	発表者	開始時間	セッション
O49	オオサンショウウオのオスにみられるプロジェステロン類似物質の生殖との関連	○手塚海香（麻布大・院・生理）・岡田純（ハンザキ研）・柄本武良（ハンザキ研）・松井久実（麻布大・獣医・生理）	9:00	A6
O50	屋外飼育下の雌雄オオサンショウウオにおける性ステロイドホルモン動態と超音波画像からみた生殖活動の年周期性	○楠田哲士（岐阜大・応用生物）・田口勇輝・野々上範之・野田亜矢子（広島市安佐動物公園）・前田佳紀（岐阜大・院・自然科技）・南心司（広島市安佐動物公園）	9:15	A6
O51	安佐動物公園におけるオオサンショウウオの標本管理と研究利用	○田口勇輝・安西航・野々上範之（安佐動物公園）	9:30	A6
O52	インドネシア・ボゴール動物学博物館のボルネオハヤセガエル標本について 一マレーシア領の種組成との比較	○島田知彦（愛教大）・松井正文（京都大）・アミール＝ハミディ（ボゴール動物博）	9:50	A7
O53	台湾スインホーハナサキガエルの複合型性染色体	○三浦郁夫（広島大・両生類）・林思民（台灣師範大・生命）	10:05	A7
O54	ナゴヤダルマガエルのメスの鳴き声による交雑回避	伊藤真（京大院・地球環境）	10:20	A7
O55	なぜ伊島のヒキガエルは大きいのか？	○木寺法子（岡理大・生地）・一條さくら・長谷川雅美（東邦大・理）	13:15	A8
O56	ヘビからカエルへの遺伝子水平伝播：起源系統とその伝播メカニズム	○神林千晶・掛橋竜祐・佐藤祐輔・古野伸明（広大・両生類研）・水野英明（横浜市）・大島一彦（長浜バイオ大・コンピューターバイオサイエンス）・熊澤慶伯（名古屋市大・システム自然科学）・Zoltán Nagy（ペギー王立博物館）・森哲（京大・理）、Allen Allison（ビショップ博物館）・Stephen Donnellan（サウスウェールズ大学）・太田英利（兵庫県大・自然研）・細 将貴（東大・理）・柳田哲矢・佐藤 宏（山口大・獣医）・Miguel Vences（ブラウンシュバイク工科大学）・倉林 敦（長浜バイオ大・アニマルバイオサイエンス）	13:30	A8
O57	無尾両生類の尾から肢へのホメオティックトランスフォーメーションにおける遺伝子発現	○森岡晶・田澤一朗（広島大学）・Quintin Lau（総合研究大学院大学）・矢尾板芳郎（広島大学）	13:45	A8
O58	無尾類の指の第一関節に見られる挿入骨格要素の発生過程とその多様性	中西健介・長谷川真・竹尾紘一（近畿大・広島高東広島校）・○田澤一朗（広島大・両生研）	14:00	A8
O59	マムシのピット器官はどうできる？—温度受容体TRPA1の局在解析—	○渡辺寛樹（東邦大・院・理・生物）・土岐田昌和（東邦大・理・生物）	9:00	B6
O60	シマヘビ (Elaphe quadrivirgata)およびトカラハブ (Protobothrops tokarensis)における体色変異；黒化変異体における体色発現関連遺伝子 Mc1r、ASIP の遺伝子解析	○岩西修造（九大・システム生命）・仁田坂英二（九大・院理）	9:15	B6
O61	外来性吸虫が日本国内のヘビ類に与える影響	○田川愛・江崎保男（兵庫大・RRM）・浅川満彦（酪農大・獣医）	9:30	B6
O62	DNA分析による慶良間諸島産イジマウミヘビの食性の評価	○山本拓海（琉球大・院・理工）・戸田守（琉球大・熱生研）	9:50	B7
O63	ツシママムシの採餌生態—季節ごとの餌動物と採餌場所—	児玉知理（京大・理）	10:05	B7
O64	中国産ヤマカガシ類は毒を持つホタルを選択的に捕食するのか？	○福田将矢・森哲（京大院・理）・Chen Qin（中国・成都生物研究所）	10:20	B7
O65	オオサンショウウオ属2種及びその交雑個体の幾何学的形態測定法による比較	○山本和宏、西川完途、松井正文（京大・人間・環境）	13:15	B8
O66	イボイモリの外部形態に見られる地理的変異	○西川完途・松井正文（京大・人間・環境）・富永篤（琉球大・教育）	13:30	B8
O67	サラワクアシナシイモリのミトコンドリアDNAにみられる地理的変異	○日比野公俊・西川完途・松井正文（京大・人間・環境）・吉川夏彦（科博・分子資料センター）・江頭幸士郎（北九州市立博）・ヤジッド=ホスマン（サラワク森林研究センター）	13:45	B8
O68	MIG-seq法に基づくアカハライモリの関東集団、東北集団、南伊豆亜系統の遺伝的関係	○富永篤（琉球大・教育）・吉川夏彦（科博）・松井正文（京都大・人環）・長太伸章（科博）・佐藤行人（琉球大・戦略的研究セ）	14:00	B8

O69	次世代シーケンサーによるミヤコカナヘビの遺伝的多様性と集団構造の評価	○和智仲是（琉球大・熱生研）・佐藤行人（琉球大・研究推進機構）・戸田守（琉球大・熱生研）	9:00	C6
O70	九州南部におけるミナミヤモリとヤクヤモリの分布およびDNA解析による2種の交雑状況の評価	○岡本康汰（琉大・院・理工）・戸田 守（琉大・熱生研）	9:15	C6
O71	分子と形態データに基づくバーバートカゲの地理的変異	○栗田和紀（京大・農）・疋田努（京大・理）	9:30	C6
O72	琉球列島のトカゲモドキの遺伝的多様性	○栗田隆気（千葉中央博）・戸田守（琉球大・熱生研）	9:50	C7
O73	ヒガシニホントカゲ（トカゲ科、爬虫綱）の繁殖生態の地理的変異（予報）	○岡本卓（京大・理・動物）・鈴木大（東海大・生物）・徳田龍弘（ぱいかだWILD-PHOTO）・栗山武夫（兵庫県立大・自然研）	10:05	C7
O74	日本版レッドリスト改訂のための南鳥島における爬虫類調査	○松木崇司（環境省）・城野哲平・戸田 守（琉球大・熱生研）・太田英利（兵庫県立大・自然研／人博）	10:20	C7
O75	海洋博公園のクロイワトカゲモドキの出現頻度と環境要因	○山崎啓・徳武浩司・岡慎一郎・宮本圭（美ら島財団）	13:15	C8
O76	対馬におけるアムールカナヘビの生息環境と生息地改变の影響	○竹中践（東海大・生）	13:30	C8
O77	ジャワ島の前期更新世カメ類およびワニ類に関する新知見とその古動物地理学的意義	○高橋亮雄（岡山理大・理）・エリック＝セティヤブディ・イワン＝クルニアワン（インドネシア地調センター）・ウングル=P.ウイボウォ・イヴァンY.P.スハルヨギ（バンドン地質博物館）・ガートD.ヴァンデンベルグ（ワーロンゴン大・地環）	13:45	C8
O78	トカゲが派手な尾の色の戦略を持つとき致命傷回避戦術をするのか	原田 龍一（無所属）	14:00	C8

日本爬虫両棲類学会 第57回大会
2018年

11/24 16:30-18:00 (コアタイム 16:30-17:30 奇数番号)
11/25 14:30-16:00 (コアタイム 14:30-15:30 偶数番号)

ポスター発表プログラム

PG番号	発表タイトル	発表者
P1	ニホンシシガメの産卵生態	○小賀野大一・八木幸市・田中一行（千葉野生研）・長谷川雅美（東邦大・理）
P2	岐阜市に生息する淡水性カメ3種における体サイズと季節に伴う卵胞発育動態の比較	○前田佳紀（岐阜大・院・自然科技）・安積修平・楠田哲士・土井 守（岐阜大・応用生物）
P3	脱出過程がアカウミガメの孵化幼体に与える影響について	小坂将・芦田泉香子・向後蓮太郎・高田光紀・三宅香成（高知大・海生研）・小林耕平（農工大・連農）・熊沢佳範（春野の自然を守る会）・○齊藤知己（高知大・海生研）
P4	瀬戸内海島嶼におけるカメ類の分散	○無木駿・藤井春菜・亀崎直樹（岡理大・生地）
P5	印旛沼水系におけるカミツキガメの性成熟・繁殖開始年齢	○辻井聖武（東邦大・理）（株）CES・今津健志（千葉県生物多様性センター）・佐野寛人・長谷川雅美（東邦大・理）
P6	アカウミガメにおける解卵温度の日内変動の影響について	○三宅香成・高田光紀・向後蓮太郎・芦田泉香子・小坂将（高知大・海生研）・小林耕平（農工大・連農）・熊沢佳範（春野の自然を守る会）・齊藤知己（高知大・海生研）
P7	Detecting Mauremys sinensis introduced species using eDNA	○Hae-jun Baek(National Institute of Ecology), Kyo-Soung Koo(Kangwon National University), Jung-Hyo Lee(National Institute of Ecology), Su-Hwan Kim(National Institute of Ecology)
P8	海洋博公園におけるクロイワトカゲモドキの捕食と被捕食例	○梅武浩司・山崎啓（沖縄美ら島財団）
P9	都市緑地におけるヒガシニホントカゲの微生息場所選択と分散	岸村真央（首都大・生命）
P10	小笠原諸島に生息するグリーンアノール <i>Anolis carolinensis</i> の卵巢の観察	○井上祐子（東邦大・理）・芦澤譲・戸田光彦（自然研）
P11	ニホンカナヘビ（ <i>Takydromus tachydromoides</i> ）の繁殖と発生過程に関する研究	○佐久間夢・奥山健太郎（東農大・院・農）・芝田涼香（東農大・農）・佐々木剛（東農大・院・農）
P12	リュウキュウアオヘビの採餌行動のパターン	○石場ゆり・森哲（京大・理）
P13	接近する熱源の大きさに影響されるニホンマムシの行動～赤外線探知の阻害は捕食者と被食者の識別機能を鈍らせる～	○樂村祐喜（九州大学大学院・システム生命科学府）・柏谷英一（九州大学）
P14	サルによる警告的ヘビの観察恐怖学習	○持田浩治（慶大・生物）・看田啓貴（京大・靈研）・西川真理（東大・新領域）・川津一隆（東北大・生命）
P15	イワサキセダカヘビの頭部骨格における左右非対称性について	○栗原沙織・細野貴・岩崎涉（東大・理）
P16	ヤマカガシの防衛用毒器官「縲腺」の組織発生	○澤田聖人（東邦大・理・生物）・森哲（京都大・理・生物）・土岐田昌和（東邦大・理・生物）
P17	一般参加型両生類爬虫類調査「ハープソンHokkaido」の実施の試み	○德田龍弘（ぱいだWILD-PHOTO）・照井滋晴（NPO法人 環境把握推進ネットワーク－PEG）
P18	瀬戸内海島嶼における爬虫両生類の分布（予報）	○藤井春菜・無木駿・亀崎直樹（岡理大・生地）
P19	マダガスカルの乾燥林における1年間のビットフォール調査	○見島庸介（東邦大・理）・ラコトアリソン＝ロラン＝マヘリ＝ジョ（アンタナリヴ大学・理）
P20	宮古諸島におけるニホンイタチによる爬虫類・両生類の捕食：養分分析の結果から	○中川雅允・河内紀吉・渡邊環樹（八千代エンジニアリング（株））
P21	南房総大山千枚田における両生・爬虫類の生息状況	○大澤啓志（日大・生物資源）
P22	京都府南部における早春期繁殖型両生類の長期産卵モニタリング	○中川宗孝・松井優樹・岡井勇樹・竹内康・中栄玲志（環境生物研究会）
P23	DNAを使った養分分析に基づく宮古諸島ニホンイタチの食性評価～両生爬虫類の補食を巡って～	○上地彩佳（琉大・理工）・和智伸是（琉大・熱生研）・伊澤雅子（琉大・理）・戸田守（琉大・熱生研）
P24	西表島におけるヤエヤマハラブチガエルの胃内容分析	○戸金 大（慶應大・自然科学研究教育セ）・秋田耕右（大阪市環科研セ）・阿南一穂（相模原市役所）・福山欣司（慶應大・生物）

P25	樹洞を利用するアマミイシカワガエルの事例	永井弓子（奄美両生類研究会）
P26	西表島のアイフィンガーガエルに利用される繁殖樹洞の形質	○佐藤拓・岩井紀子（農工大・地域生態システム）
P28	西表島に同所的に生息するカエル類3種の環境選択性	○山本結沙・中西希・伊澤雅子（琉球大・理）・太田英利（兵庫県立大・自然研/人博）
P29	ナゴヤダルマガエルの越冬場所選択に影響する環境要因	○多田正和（岡山大・院・環境）・伊藤邦夫（倉敷市）・齋藤 稔（徳島大・生物資源・水圈七）・森 也寸志・福樹純平・中田和義（岡山大・院・環境）
P30	奈良市内の山麓に生息するシュレーベルアガエルとモリアガエルの混棲場所	○佐藤孝則（天理大）
P31	伊豆半島におけるカジカガエルの分布	○川崎昇・大澤哲志（日大・生物資源）
P32	エゾアカガエルの系統地理学的研究	○高井孝太郎（東海大・生物）・渥美圭佑・小泉逸郎（北大・環境科学）
P33	アフリカウシガエルの夏眠メニズムの解明に向けた、de novoトランスクリプトーム・アッセンブリ解析	○吉田直樹（東大・薬）・垣内力（東大・薬）
P34	ニホンアマガエルの相対成長	○辻野夢久（北大・理）・西川完途（京大・人間・環境）・角井敬知（北大・理）
P36	ニホンアマガエルヒアリカツメガエルの幼生尾の再生過程	○千郷由依・託見健・清水慶子（岡山理大・院・動物）
P37	ナガレタコガエルの特異な発生過程	○岸本渓・林文男（首都大・生命）
P38	岐阜県産タコガエル類の染色体数及び繁殖音について	○田中真紀・鳥田知彦（愛教大・理科・生物）
P39	RAD-seq解析で明らかになったタコガエル種群の遺伝的多様性	○江頭幸士郎（北九州市立博）・松井正文（京都市）・木下豪太（京都大・農）
P40	鳴き声調査による関東平野の田んぼのカエルの分布マップ	○松島野技・西廣淳・長谷川雅美（東邦大・理）
P41	水管理方法の違いによるニホンアカガエル幼生への成長影響	○木村咲希・夏原由博（名大・院・環境）
P42	外来種シロアガエルの侵入モデル	○永田拳吾（九州大・理）・巖佐庸（関西学院大）
P43	上陸したニホンアカガエルにとっての陸上環境を評価する	○長谷川雅美・本波友梨香・松島野技（東邦大・理）
P44	カスミサンショウウオの白色変異と戻し交配による変異の発現について	○笹井隆秀（須磨海岸水族園）・笹井隆邦（神戸常盤大学）
P45	孤立した谷津に生息するアカハライモリ（ <i>Cynops phrythagaster</i> ）の生態	○齋藤大河・工藤陽介・井上祐子・西廣淳（東邦大・理）
P46	トウホクサンショウウオは產まれた池に戻って繁殖するのか？Ⅲ：個体の成長記録	○太田宏（東北大・高教機構）
P47	ヒダサンショウウオの産卵におけるスニーカー行動の観察	○三宅遼香（私立鷺谷高等学校）・福田英治（岐阜県山県市立富岡小学校）
P48	アカハライモリ2系統における繁殖行動の比較	○五十嵐萌詩・西川完途（京大院・人間・環境）・富永篤（筑大・教）
P49	新潟県笹ヶ峰高原及び火打山で確認したクロサンショウウオの透明型卵嚢	○佐藤直樹（上越科学館）
P50	カスミサンショウウオから見出された不東タンパク質について	○水戸 直、三上 義之、齊藤修（長浜バイオ大・バイオサイエンス）
P51	クロサンショウウオ（ <i>Hynobius nigrescens</i> ）における雄の頭胴長と尾長の進化	○森井椋大・池田紘士・西野敦雄（弘前大学）
P52	オオサンショウウオにおける頭蓋発生の定量的評価	○石川薰（東邦大・理・生物）・田口勇輝（広島市安佐動物公園）・土岐田昌和（東邦大・理・生物）
P53	滋賀県北東部に生息するカスミサンショウウオ2集団の食性及び遺伝系統解析	○片瀬かりん・水戸直・齊藤修（長浜バイオ大学・バイオサイエンス）
P54	兵庫県産カスミサンショウウオの遺伝子解析	○大路 錦裕（兵庫県立尼崎小田高等学校）
P55	エゾサンショウウオの染色体	○飯塚光司（東京都）・秋山繁治（南九州大）、スタンレー・セッシュンズ（ハートヴィック大）
P56	北海道上士幌町で確認されたキタサンショウウオの生息状況（標報）	○照井滋晴（NPO法人環境巴彌推進ネットワーク-PERG）・乙幡康之（ひがしだ雪自然館）・池田亨嘉（帯広百年記念館）・堤公宏（（株）スコーシャ）・佐藤孝則（天理大学おやさと研究所）・竹中践（東海大学）
P57	滋賀県のオオサンショウウオの生息実態調査の試み	○中川亮・若山謙登・城本裕基・田中聰吾・水戸直（長浜バイオ大学・バイオサイエンス）・源利文（神戸大学・院・人間・環境学研究科）・西川完途・松井正文（京都大学・院・人間・環境学研究科）・齊藤修（長浜バイオ大学・バイオサイエンス）
P58	水環境がアカハライモリ幼生および成体の移動性に与える影響	○新美澄・岩井紀子（農工大・地域生態システム）

講演要旨の作成と提出に関するお願い

日本爬虫両棲類学会 和文誌編集委員会

◆はじめに

日本爬虫両棲類学会大会の講演者（口頭発表、ポスター発表）は、必ず講演要旨を提出してください。それらの要旨は爬虫両棲類学会報第2019巻1号に掲載されます。講演要旨は、以下の要項にしたがって作成してください。編集作業の負担軽減のため、締切及びフォーマットの厳守にご協力ください。なお手書き原稿の提出をご希望の場合は、大会本部を通じて和文誌編集委員会まで申し出てください。

◆講演要旨作成について

次頁の「講演要旨執筆要項」を熟読いただき、「要旨フォーム temp.docx」をもとに原稿を作成してください。なお、爬虫両棲類学会報は和文を原則としていますので、外国人の方が主発表者の場合でも、日本人が共同研究者に入っている場合は和文の要旨を作成してください。

◆提出方法について

提出に際して、極力、メールを使ってください。

1. メールをご利用になる方

講演要旨を添付ファイルとしてお送りください。大会当日に原稿をお持ちいただく必要はありません。ファイルは、使用ソフトの種類に関わらず、MS Wordで読み込める形式（拡張子 doc または docx）にしてください。MS Word形式のファイルを作れない場合は、メールの本文に講演要旨を貼り付けてください。その場合は、イタリック体や特殊文字が利用できませんので、それらを指示した印刷原稿を大会当日に受付に提出してください。

原稿の提出締切は11月23日（金）AM10:00、宛先は hsjabst@gmail.com です。添付するファイル名は、講演番号と第1発表者氏名にしてください。英数字は半角大文字にしてください（例：P-01 田代やも郎. docx）。

2. メールをご利用にならない方

大会参加時に、印刷原稿とその電子データを持参し、ご自分の講演が始まる以前に大会受付にご提出ください。電子データは、MS Wordで読み込める形式またはテキスト形式に

して、CD-R等に保存してお持ちください。特にご要望のない限り、媒体の返却は致しませんのでご了承ください。

パソコンで表記できない文字の使用は極力避けてください。それが困難な場合は、印刷原稿に指定の文字を朱書きしてご提出ください。

講演要旨執筆要項

日本爬虫両棲類学会 和文誌編集委員会

講演要旨は以下の順番で構成する。

○講演題目（和文）

○発表者氏名及び発表者所属（和文）

○講演題目（英文）

○発表者氏名（英文）

○本文（和文）本文の字数は660字以内、英文の場合は200 words以内。

注意点

1. 講演題目（和文）

アラビア数字、アルファベットのみ半角とする。

2. 発表者氏名及び発表者所属（和文）

発表者が二人以上の場合は「・（なかぐろ）」で繋ぐ。発表者の後の（）内に所属する機関、会社、団体等の略称、あるいは在住する自治体名を入れる。同じ所属の発表者が連続する場合には、同一所属の最後の発表者にのみ所属を付ける。

3. 講演題目（英文）

最初の語や固有名詞などの頭文字のみ半角大文字とし、あとは半角小文字とする。属や種、亜種の学名は斜体（イタリック体）表記とする。

4. 発表者氏名（英文）

発表者が二人の場合は“and”で繋ぎ、その前に「,」は付けない。発表者が三人以上の場合は「,」で繋げ、最後の発表者前に「, and」を入れる。

5. その他

体裁等はそのまま印刷されるので、余計な情報（英文における所属機関の情報など）は入れない。和文と英文で、発表者の名前や順番が同じであることを確認する。本文中は改行しない。図表や引用文献は入れない。

※詳細については、次項の見本を参照のこと。

【重要！】

講演要旨の上限 660 字は「単語数」ではなく、「文字数（スペースを含める）」です。MS Word の入力画面の左下には「文字数」を称した数字が常に表記されていますが、実はこれは「単語数」で、文字数よりも大幅に少なくなっています。正しい文字数は、Word の文字カウント機能を使用して計算してください。

※文字カウント機能の操作方法については、Google 等の検索エンジンで「MSWord」「文字カウント」等と入力すると参考することができます。

講演要旨原稿の見本

文頭と固有名詞のみ大文字で始める

発表者が二人以上の場合は「・」で繋げる

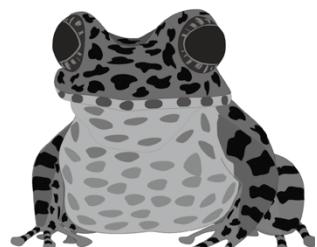
同一所属の最後の発表者にのみ所属を付ける

日本の爬虫類と両生類
蜥蜴太郎・蛇山次郎（爬虫類研）、井守美幸（両棲大・理・生物）、亀川亜子（爬虫類研）・蛙谷卵子（両棲大・理・生物）
Reptiles and amphibians of Japan
Taro Tokage, Jiro Hebiyama, Miyuki Imori, Kameko Kamekawa, and Ranko Kaerutani
2010 年 1 月から 2013 年 12 月にかけて、日本国内の次の 32 地域で春期を中心として爬虫類、両生類を探し、出現種を記録した。北海道釧路市、札幌市、青森県青森市、岩手県盛岡市、秋田県秋田市、福島県いわき市、茨城県つくば市、千葉県南房総市、東京都八丈町、石川県白山市、山梨県甲府市、長野県北安曇郡、愛知県知多郡、滋賀県大津市、京都府舞鶴市、兵庫県三田市、奈良県吉野市、鳥取県米子市、広島県東広島市、山口県下関市、愛媛県松山市、高知県安芸市、福岡県福岡市、長崎県対馬市、五島市、大分県別府市、鹿児島県指宿市、奄美市、沖縄県国頭郡、那覇市、宮古島市、石垣市。全ての地域を合計して、爬虫類 45 種、両生類 25 種が確認された。爬虫類、両生類の別に出現種の類似度を見たところ、両分類群とも、鹿児島県奄美市以南とそれより北側で出現種が大きく変化することが確認された。北海道から九州までの地域は出現種の共通性が高く、特に爬虫類においてはほとんどの種が共通してみられた。対馬市、奄美市、国頭郡、石垣市などの島嶼部では、他の地域では確認されない種の比率が高く、日本国内の爬虫類と両生類の多様性を維持する上で重要な地域であることが示された。外来種は各地で出現していたが、関東以西の都市近く（県庁所在周辺）における出現率が高かった。

「である・だ」調で書き、改行はしない。
本文文字数 660 字以内を厳守のこと。

所属は略称とする

三人以上の場合最後の発表者の前にのみ「、and」を入れる



第57回大会参加者名簿（10/31登録分まで）

氏名	氏名(英字)	発表	共同発表	懇親会	氏名	氏名(英字)	発表	共同発表	懇親会
阿部 良治	Y. Abe			○	片渕 かりん	K. katafuchi	P-53		
秋山 繁治	S. Akiyama		P-55		片岡 友美	T. Kataoka			○
秋山 幸也	K. Akiyama			○	片山 あゆみ	A. Katayama			○
天野 浩美	H. Amano				川合 恵	M. Kawai			
安藤 廉子	K. Ando				河村 功一	K. Kawamura		O-27,28	
青木 良輔	R. Aoki			○	川崎 昇	N. Kawasaki	P-31		○
荒牧 遼太郎	R. Aramaki			○	木寺 法子	N. Kidera	O-55		○
有留 維織	I. Aridome	O-16			木村 咲稀	S. Kimura	P-41		
Norshaqinah Ayob	N. Ayob	O-48		○	木村 有紀	Y. Kimura			○
Hae-jun Baek	H. Baek	P-7			桐生 大輔	D. Kiryu			○
江田 廉紀	Y. Eda			○	岸本 渥	K. Kishimoto	P-37		
遠藤 聰子	S. Endo			○	岸村 真央	M. Kishimura	P-9		
江頭 幸士郎	K. Eto	P-39	O-9,67	○	小林 賴太	R. Kobayashi	O-30		○
藤林 真	N. Fujibayashi	O-40	O-44	○	小林 滉平	K. Kobayashi			○
藤井 春菜	H. Fujii	P-18	P-4	○	小林 海瑠	K. Kobayashi			
藤井 星渚	S. Fujii			○	児玉 知理	T. Kodama	O-63		○
藤田 宏之	H. Fujita	O-32		○	児島 康介	Y. Kojima	P-19		○
藤田 大空	O. Fujita			○	近藤 めぐみ	M. Kondo			○
藤谷 武史	T. Fujitani		O-5	○	越河 晓洋	A. Koshikawa			○
福家 悠介	Y. Fuke			○	小菅 康弘	Y. Kosuge			○
福田 将矢	M. Fukuda	O-64		○	工藤 陽介	Y. Kudo		P-45	
福谷 和美	K. Fukutani	O-4		○	栗原 沙織	S. Kurihara	P-15		○
福山 欣司	K. Fukuyama		P-24	○	栗田 一輝	K. Kurita	O-2		○
船藤 史	A. Funato				栗田 和紀	K. Kurita	O-71		○
古谷 真理子	M. Furuya				栗田 隆氣	T. Kurita	O-72		○
後藤 康人	Y. Goto			○	黒田 晴花	H. Kuroda			
八谷 和彦	K. Hachiya				草野 保	T. Kusano			○
原 壮大朗	S. Hara	O-14		○	楠田 哲士	S. Kusuda	O-50	P-2	
原 幸治	K. Hara			○	桑原 一司	K. Kuwabara			○
原田 龍一	R. Harada	O-78			林 昭好	C. Lin			○
長谷 和子	K. Hase	O-10			前田 佳紀	Y. Maeda	P-2	O-50	○
長谷 千波矢	C. Hase				前田 憲男	N. Maeda			○
長谷川 雅美	M. Hasegawa	P-43	O-39,55,P-1,5,40	○	牧野 智久	T. Makino			○
長谷川 真	N. Hasegawa		O-58		丸野内 淳介	J. Marunouchi			○
林 聰彦	T. Hayashi			○	丸山 一子	K. Maruyama			○
林 光武	T. Hayashi			○	丸山 正樹	M. Maruyama			○
檜垣 友哉	Y. Higaki	O-5		○	稻葉 正和	I. masakazu		O-31	○
疋田 努	T. Hikida	O-47	O-71	○	日比野 公俊	H. Masatoshi	O-67		○
広瀬 文男	A. Hirose			○	松井 正文	M. Matsui	O-9	O-2,3,4,8,13,52,65,66,67,68, P-39,57	○
細 将貴	M. Hosoi		O-56,P-15	○	松井 久実	K. Matsui		O-49	○
五十嵐 萌詩	M. Igarashi	P-48		○	松木 崇司	T. Matsuki	O-74		○
飯塚 光司	K. Iizuka	P-55			松尾 公則	T. Matsu			○
飯塚 淳也	J. Iizuka			○	松島 野枝	N. Matsushima	P-40	P-43	○
井上 祐子	Y. Inoue	P-10	P-45	○	三木 あずさ	A. Miki			
石場 梶り	Y. Ishiba	P-12			三根 佳奈子	K. Mine	O-44	O-36	○
石川 薫	K. Ishikawa	P-52		○	見澤 康充	Y. Misawa	O-13		○
伊藤 翔	K. Ito				三澤 はじめ	H. Misawa			
伊藤 真	M. Itoh	O-54		○	三谷 奈保	N. Mitani	O-20		
岩井 紀子	N. Iwai	O-11	O-12,P-26,58	○	水戸 直	N. Mito	P-50	P-53,57	
岩西 修造	S. Iwanishi	O-60		○	三浦 郁夫	I. Miura	O-53	O-5,6	○
岩尾一	H. Iwao			○	宮畠 周平	S. Miyahata			○
岩田 貴之	T. Iwata		O-13		三宅 遙香	H. Miyake	P-47		
城野 哲平	T. Jono	O-21	O-17,74	○	三宅 香成	K. Miyake	P-6	P-3	
蕪木 駿	S. Kaburagi	P-4	P-18	○	三宅 恵子	K. Miyake			
加賀山 翔一	S. Kagayama	O-39		○	宮崎 真里奈	M. Miyazaki	O-19		○
鶴内 博之	H. Kaichi			○	宮崎 真結	M. Miyazaki			○
皆藤 琢磨	T. Kaito			○	持田 浩治	K. Mochida	P-14		○
釜坂 綾	R. Kamasaka				望月 陽太	Y. Mochizuki			○
鎌田 篤	A. Kamata			○	森 哲	A. Mori	O-23	O-17,64,P-12,16	○
神林 千晶	C. Kambayashi	O-56		○	守 亜 和由喜	K. Moria			○
亀崎 直樹	N. Kamezaki	O-45	O-36,40,44,47,P-4,18	○	森口 一	H. Moriguchi			○
上村 信	S. Kamimura			○	森井 棕太	R. Mori	P-51		
上村 亮	R. Kamimura			○	森岡 晶	S. Morioka	O-57		○
金井 賢一郎	K. Kanai			○	森田 悅朗	E. Morita			○
					森山 純	J. Moriyama			○

氏名	氏名(英字)	発表	共同発表	懇親会
永井 弓子	Y. Nagai	P-25	O-11	○
永井 智也	T. Nagai			○
永野 昌博	M. Nagano	O-15	O-16	
長崎 哲新	T. Nagasaki	O-27	O-28	○
永田 拳吾	K. Nagata	P-42		
中川 亮	R. Nakagawa	P-57		
中川 雅允	M. Nakagawa	P-20		○
中川 宗孝	M. Nakagawa	P-22		○
中川 洋	Y. Nakagawa			
中西 希	N. Nakanishi		P-28	○
中西 健介	K. Nakanishi		O-58	
中尾 郁佳	F. Nakao			○
中津 元樹	G. Nakatsu			○
新美 澄	K. Niimi	P-58		
新津 健太	K. Niitsu			○
西堀 智子	T. Nishibori	O-33		○
西川 完途	K. Nishikawa	O-66	O-1,2,3,4,9,13,14,65,67, P-34,48,57	○
西海 太介	D. Nishiumi			○
丹羽 奎太	K. Niwa	O-1		○
野田 英樹	H. Noda	O-41		○
越智 慎平	S. Ochi			○
小賀野 大一	D. Ogano	P-1		○
尾形 光昭	M. Ogata	O-6	O-5	○
小川 正則	M. Ogawa			
大路 純裕	K. Oji	P-54		
岡田 純	S. Okada		O-13,49	○
岡本 廉	K. Okamoto	O-46		○
岡本 康汰	K. Okamoto	O-70		○
岡本 卓	T. Okamoto	O-73		○
岡山 健仁	T. Okayama	O-31		○
沖 浩志	K. Oki			
大河内 勇	I. Okochi			○
大澤 啓志	S. Osawa	P-21	P-31	○
大沢 哲也	T. Osawa			○
太田 英利	H. Ota	O-28	O-27,56,74,P-28	○
太田 宏	H. Ota	P-46		○
大竹 阿士	A. Otake	O-3		○
尾崎 真澄	M. Ozaki			○
櫻村 祐喜	Y. Rakumura	P-13		○
齋藤 大河	T. Saito	P-45		
齐藤 知己	T. Saito	P-3	P-6	○
坂 雅宏	M. Saka	O-35	O-34	○
阪本 嘉司	K. Sakamoto			
佐久間 夢	Y. Sakuma	P-11		
三田 真紀	M. Sanda	P-38		
佐野 寛人	H. Sano		P-5	○
笹井 隆秀	T. Sasai	P-44	O-26	○
佐々木 彰央	A. Sasaki			○
佐藤 直樹	N. Sato	P-49		○
佐藤 孝則	T. Sato	P-30	P-56	○
佐藤 拓	T. Sato	P-26		
佐藤 広康	H. Sato			○
佐藤 方博	M. Sato			○
澤田 聖人	K. Sawada	P-16		○
千郷 由依	Y. Sengo	P-36		○
柴田 弘紀	H. Shibata	O-18		○
柴崎 栄二	E. Shibasaki			
渋谷 悠里菜	Y. Shibuya			
島田 知彦	T. Shimada	O-52	P-39	○
嶋津 信彦	N. Shimadzu	O-29		
清水 海渡	K. Shimizu			○
篠塚 理	M. Shinozuka			○
添田 晴日	H. Soeda			○
鈴木 大	D. Suzuki		0-73	○

氏名	氏名(英字)	発表	共同発表	懇親会
鈴木 義隆	Y. SUZUKI			
Syahfitri Anita	A. Syahfitri	O-25		
多田 哲子	N. Tada	O-34	O-35	○
多田 正和	M. Tada	P-29		○
田上 正隆	M. Tagami			○
田川 愛	M. Tagawa	O-61		○
田口 勇輝	Y. Taguchi	O-51	O-50,P-52	○
高木 香里	K. Takagi			
高橋 亮雄	A. Takahashi	O-77		○
高橋 洋生	H. Takahashi	O-42	O-36,37	○
高井 孝太郎	K. Takai	P-32		
高田 賢人	K. Takata			○
竹田 正義	M. Takeda	O-43	O-40	○
竹中 践	S. Takenaka	O-76	P-56	○
田村 ユカ	Y. Tamura	O-38	O-37	○
田辺 暢哉	N. Tanabe			○
田中一上野 寛子	T. Tanaka-Ueno			
丹下 麻衣	M. Tange			
谷 良夫	Y. Tani	P-54		
谷口 真理	M. Taniguchi	O-36	O-42	○
Mr.-Shan Dar-Tao	S. Tao	O-22		○
田澤 一朗	I. Tazawa	O-58	O-57	○
照井 滋晴	S. Terui	P-56	P-17	○
手塚 海香	M. Tezuka	O-49		○
戸田 守	M. Toda	O-26	O-21,23,27,62,69,72,P-23	○
戸田 光彦	M. Toda		P-10	○
戸金 大	D. Togane	P-24		○
東川 翔太	S. Togawa			○
徳田 龍弘	T. Tokuda	P-17	O-73	○
徳田 理奈子	R. Tokuda			○
徳武 浩司	K. Tokutake	P-8	O-75	○
富森 祐輔	Y. Tomimori			○
富永 篤	A. Tominaga	O-68	O-2,66,P-48	○
富岡 克寛	K. Tomioka			○
辻井 聖武	M. Tsuji	P-5		○
辻野 夢久	M. Tsujino	P-34		○
塚本 誠太	S. Tsukamoto			○
鈴谷 洋輔	Y. Tsuriya			○
上地 彩佳	A. Uechi	P-23		○
植田 健仁	T. Ueda			
氏家 里奈子	R. Ujije	O-17		
宇根 有美	Y. Une			○
和智 仲是	N. Wachi	O-69	P-23	○
和田 裕太	Y. Wada			
渡辺 潔	K. Watanabe			○
渡辺 寛樹	H. Watanabe	O-59		○
矢部 隆	T. Yabe	O-37	O-38	○
八木 愛	A. Yagi			○
山川 央	H. Yamakawa			
山本 拓海	T. Yamamoto	O-62		○
山本 和宏	K. Yamamoto	O-65		○
山本 結沙	Y. Yamamoto	P-28		○
山中 隼輝	T. Yamanaka			○
山根 百佳	M. Yamane			○
山崎 啓	K. Yamazaki	O-75	P-8	○
矢追 雄一	Y. Yaoi	O-7		
Chun Kai, YANG	C. Yang	O-24		○
休場 聖美	K. Yasumiba	O-12	O-11	○
米田 和典	K. Yoneda			○
吉田 直樹	N. Yoshida	P-33		○
吉原 妃花梨	H. Yoshihara		O-15	
吉川 直志	N. Yoshikawa			○
吉川 夏彦	N. Yoshikawa	O-8	O-67,68	○
吉村 雅子	M. Yoshimura			○
吉澤 賢治	K. Yoshizawa			○
湯本 光子	M. Yumoto			

出展

L 1 0 3 - 1 0 4

1 1 / 2 4 9 : 3 0 ~ 1 1 / 2 5 1 5 : 0 0

有尾社

両生類・爬虫類専門雑誌
Caudata 第2号
(特集オオサンショウウオ)。

三澤工作所

あらゆるものをお望みにあわせて、本物により近く、素材感も含めてこだわって作成しています。

北海道

爬虫両棲類研究会

北海道で活動する両爬研究会のベースです。研究の会報や報告書、グッズなど。お寄りいただけたら幸いです。

【はくラボ】認定特定

非営利活動法人

大阪自然史センター
大阪市立自然史博物館ミュージアムショップが初出展。
両爬の魅力を楽しむグッズと書籍を販売します。

株式会社

文一総合出版

新刊「日本産カエル大鑑」を中心に、図鑑を販売します。
この機会にぜひお立ち寄りください。

• 11/24のみの出展・

岐阜大学動物

繁殖学研究室

カメやサンショウウオ等の繁殖生理を研究しています。缶バッジ等グッズを販売します。
売上は研究室の活動に。

青木良輔

爬虫類、両生類関係の洋書
(カメ関係が多め)、爬虫類柄のTシャツを販売いたします。

生態工房

身近な生きものをテーマにしたオリジナルグッズ等を販売します。イチオシはアマガエル・ヒキガエルの手ぬぐい!

アクアプラント

リアルな生体模型からストラップの造形、平面デザイン等。会場では模型の展示、根付ストラップ、Tシャツの販売をいたします。

虫うどん

ステッカー、缶バッジなどのフィールドでも持ち運べるような雑貨類の販売を予定しています。

包み屋

(くるみや)

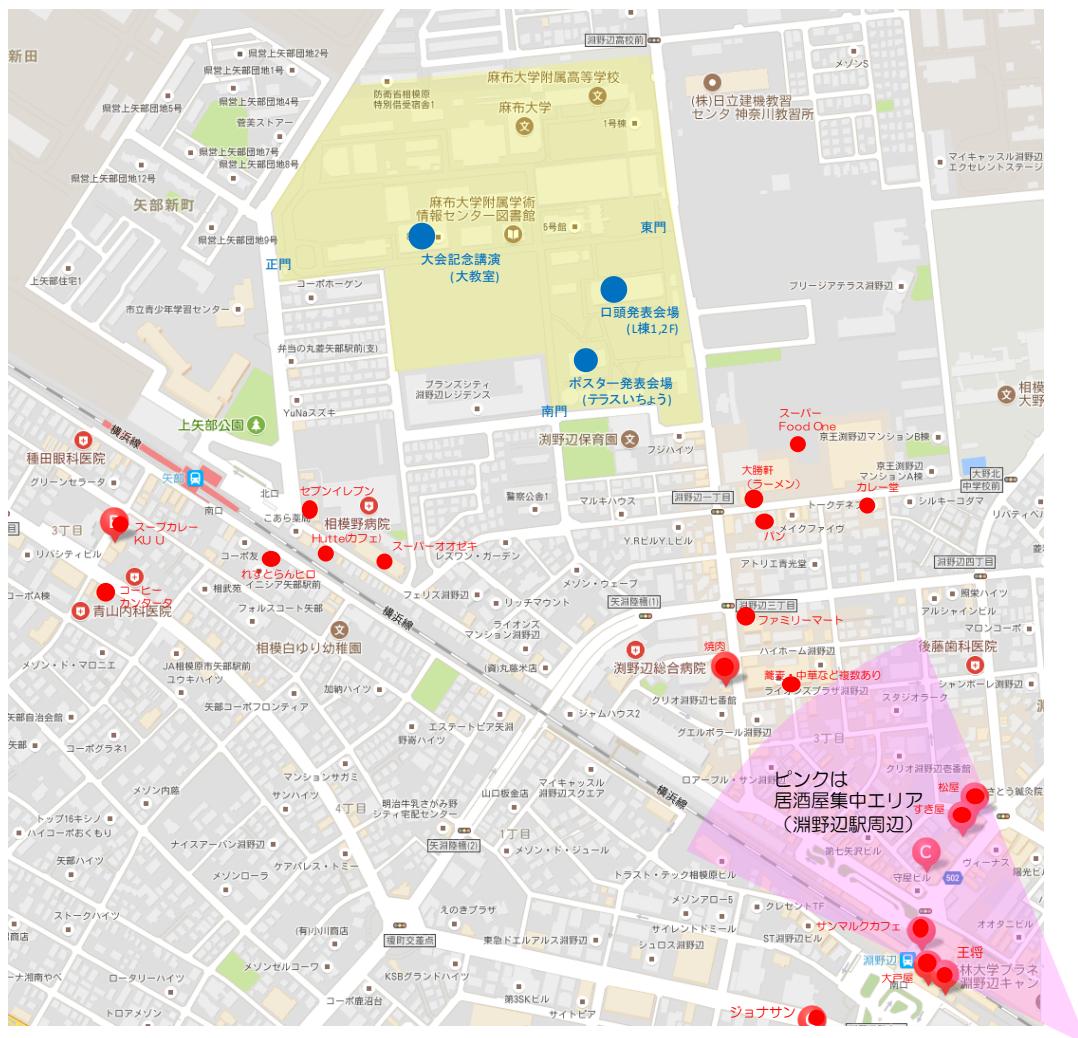
生き物柄のアクセサリーをハンドメイドで作っています。
学会に合わせて爬虫類と両棲類柄を沢山並べます!

株式会社

エイブリッジ

生物の行動を見る化。AIによる生物行動分析システム"See Tone"を全国ではじめて展示します。

麻布大学周辺 ランチ&居酒屋 マップ



簡単な飲食店マップです。

矢部駅周辺は、特に駅向こうに飲食店があります。

淵野辺駅周辺は北口は駅前商店街の中に飲食店、駅南口には駅周辺に飲食店があります。

L学部棟から矢部駅までは正門を利用して徒歩10分内、淵野辺駅までは正門から矢部駅前を左折し、線路沿いに歩いた場合、約20分の距離になります。

東門・南門の通行者利用については、大会当日にご案内します。

土曜・日曜は学内の食堂は営業していません。



日本爬虫両棲類学会 第57回大会

大会長：宇根 有美

実行委員長：松井 久実

実行委員：森口 一

前田 憲男

尾形 光昭

持田 浩治

戸金 大

スタッフ：麻布大学獣医学部生理学第一研究室 室生の皆さん

イラスト：悠莉（デジタルツール研究会）